

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和6年度報告】 (各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)													
NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	効果	実績値を踏まえた事業の効果について		
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R6年度)	実績値(R6年度)		実績に対する評価	KPI未達成理由	今後の方針
1	日本一輝けるスタートアップアイランド～多様な人財が集まり、安心して暮らし・働き・チャレンジできる島づくり～	【「輝ける」地域づくりと「働く」人材の確保から安心して「働き」・「チャレンジ」し輝ける環境づくり】 ① 島内企業全体のブランド力向上、選ばれる会社になるための仕掛けづくりと、魅力があり安心して働ける環境の創出 ② 若手起業家等が活躍し、次世代の担い手が輝ける仕組みづくり ③ 若者の交流人口の拡大と定着による賑わいの創出 ④ 若者の定着率を高めるための郷土に愛着を持つUターンの受入促進のための取組み 【都市部とのつながりを築き、都市部からの新しいひとの流れをつくり安心して「暮らせる」環境づくり】 ① 多くの移住者を受け入れ、定着させるための体制の構築 ② 佐渡出身者への情報発信とUターンの受入れ促進 ③ 空き家活用のマネジメント強化による景観の維持と資源の有効活用および気軽に移住者や2地域居住者が暮らせる環境づくり	R4	45,309,000	22,654,500	① Uターン定着率(%)	0%	80.00%	73.91%	地方創生に一定程度の効果があった	【事業評価】 【「輝ける」地域づくりと「働く」人材の確保から安心して「働き」・「チャレンジ」し輝ける環境づくり】 ■島内企業全体のブランド力向上、選ばれる会社になるための仕掛けづくりと、魅力があり安心して働ける環境の創出 ・HP作成やインターンシップ受入など人材確保の取り組みに関して、企業ブランド力強化支援事業補助金として36件の支援を行った。 ・外国人材の雇用について、人材採用についてのテーマで講演を行い、計30名の参加があった。 ・ハローワーク佐渡と連合商工会、サポステと連携のうえ、新社会人向け交流会やセミナーを3回開催し、知識習得だけでなく横の繋がりがも深めることができた。 ・高校生向け企業説明会を開催し、島内就職希望者の情報収集の場を設けることができた。 ・デジタル技術を活用し、求職者と事業所をつなぐマッチングシステムを構築。186事業所と2,483名が登録し、採用件数は4,143件であった。就業機会の増加により、人手不足の解消に寄与した。 ■若手起業家等が活躍し、次世代の担い手が輝ける仕組みづくり ・起業家の交流・発信拠点「シェアオフィス」に進出した企業の定着化を図るとともに、コワーキングスペースを本市と連携協定を締結する大学や企業をはじめ地元企業との交流スペースとして利活用を図ったが、島内外の企業・起業家や若者同士の交流を促進し、次世代が輝ける仕組みづくり、賑わい創出の基礎を作ることができた。 ■若者の交流人口の拡大と定着 ・年間でインターンシップの参加学生は7名となり、受入企業は5社となった。そのうち、2名が島内企業の内々定につながった。 ■Uターン受入促進のための取組み ・起業家育成においては、佐渡総合高校において起業家・即戦力人材を育てるための部活動を創設し、学校とNPO法人、そして市内IT企業と連携して生徒のスキルアップと起業家マインド育成の取組を実施した。 ・市内小学4～6年生を対象に子どもプログラミング教室を開催し、19名が参加した。新潟工科大学が講師となり、ドローンを使う機種などを紹介し、進路設計の選択技を広げることができた。 ・佐渡と関係のある若手起業家3名と市内の起業家が講師となり、中学校3校で職業講話を実施した。学生の進路設計の視野を広げ、郷土愛の醸成を図ることができた。 ・「佐渡式会社」運営体験事業として、会社運営方法と佐渡で生まれる産品を学ぶ、広報・販売・営業に分かれて、プロから学んだチーム内における役割分担と専門的な技術を、産品の魅力発信動画作成や販売会で実践した。また、プロのバイヤー相手の商談も実践し、児童作成の販促品、PR動画を活用した首都圏での販売会の実績を踏まえ、首都圏での新たな商品展開に繋がった。 【都市部とのつながりを築き、都市部からの新しいひとの流れをつくり安心して「暮らせる」環境づくり】 ■移住・Uターンの受入促進と定着させるための体制の構築 ・Uターンインフォメーションセンターを通じた相談対応及び情報提供体制の強化と首都圏等での移住促進イベント・交流会を実施した。Uターンインフォメーションセンターの運営委託により、専門的な知見や柔軟な対応が可能となり、また、イベントの開催を通じて、佐渡出身者とのネットワーク形成が進み、Uターン促進の足がかりとなった。 ・空き家相談に関する対応の高度化を図るため、相談事例データベースシステムを活用した体制の整備を図ると、行政内の風化防止や継続的な対応体制の確立に寄与しており、他の分野への発展も期待される。全体として、移住希望者の受入から定着までを一體的に支援する体制づくりが進展し、R7年度以降も継続的な取組が必要である。	【KPI未達成理由】 ■KPI①Uターン定着率 ・Uターン者の定着率は目標を上回るものの、特に若い世代のUターン者の再転出が大きく目標を下回った。Uターンインフォメーションセンターにおいて定着を促す交流会を実施し、多くの移住者から参加いただいた満足度も高いものとなっているが、首都圏との資金格差や処遇格差により転職を理由とした再転出が増加している。 ■KPI②Uターン者数 ・新型コロナウイルス感染症が収束し、若者の東京一極集中が加速するとともに地方において移住者を募りあっている状況のなか、Uターン者は△7%で、Uターン者が△41%と特に大きく減少した。首都圏での交流イベントでも例年より参加者が限定的で関係人口とはなるものの移住までは結びつかなかった。 ■KPI③インターンシップ受入企業数 ・学生の希望と事業内容のミスマッチなどが原因と推察される。 ・学生が興味のある企業のインターンシップに自ら申し込みをする傾向にあったこと、また、企業の提案するプログラムが十分でなく、学生に選ばれる仕事環境・体制になっていなかったことが挙げられる。 ■KPI④ベンチャー企業の本社機能移転数 ・若手起業家や首都圏企業をターゲットとした滞在型研修・ワーケーション施設の整備が当初より遅れたこともあり、誘致活動が十分に実施できなかったこともあり、本社機能移転まで結びつかなかったと考える。しかしながら、佐渡への進出という部分では、現在でも進んでおり、令和7年度からは1社佐渡で新たに創業予定の事業者がいる。	【実績を踏まえた事業の見直し】 ■KPI①Uターン定着率 ・地域住民とのつながりを重視した定着支援へと深化を図り、Uターンインフォメーションセンターと佐渡くらしテラスとの連携により、移住希望者のライフステージに応じた相談対応を行う。また、今後は佐渡ならではの豊かな暮らし方・働き方をセットにした提案の強化や、二地域居住等を促進することで若者の定着を促す。 ■KPI②Uターン者数 ・移住希望者への伴走支援の強化を図り、特に、若年層や子育て世代のUターンを意識した施策を強化し、「移住して暮らせる佐渡」の実現を目指す。 また、新たなターン施策として二地域居住を促進し、新たな地方への人の流れを創造していくことが必要。 ・首都圏・都市部でのプロモーションを強化する(若年層・子育て世代向けイベント、企業と連携したターゲットPR)。 ・佐渡出身者ネットワークの再構築と、Uターン促進に向けた定期的なオンライン交流機会を創出する。 ・空き家所有者へのアンケート・啓発・伴走支援を通じた「活用可能な物件数の増加」への取組を行う。また、空き家相談体制の拡充と、デジタル化を推進した空き家バンクの掲載強化・物件案内動画の制作などを行う。 ・「佐渡式会社」運営体験事業のマニュアル(実績報告)を市内の各小中学校へ展開し、自定化を図るが、金井小学校で自定する成果が得られた。 ■KPI③インターンシップ受入企業数 ・事業内容を整理、再構築し、事業の周知普及と企業側の受入体制構築を図る。 ■KPI④ベンチャー企業の本社機能移転数 ・EO(年商1億円を超える会社の若手起業家の世界的ネットワーク)やNIB(新潟イノベーションベース)等の起業家が集まる場に積極的に参加しながら、運営事業者と連携、集客を進めている。
						② Uターン者数(人)	504人	580人	445人				
						③ インターンシップ受入企業数(社)	10社	27社	5社				
						④ ベンチャー企業の本社機能移転数(社)	0社	3社	0社				
2	持続可能な観光地域づくりを目指した「佐渡版MaaS」実証事業	〈佐渡版MaaS「観光地における新たなモビリティ」〉 【さどまる倶楽部運営管理業務委託料】 ◆アプリにより、交通手段と観光情報を提供することで多様な観光ニーズにも対応できるシステムを構築し、回遊性の充実を図るとともに、観光客の旅行消費額と満足度の向上を目指す。 【ユニバーサルな佐渡市に向けての拠点づくり】 ◆地域住民参加型のイベント等の定着化を図り、世界遺産登録による観光交流人口増加等の効果が重なることで、世界遺産の見学を目的に佐渡金銀山ガイドランス施設に人々が集い、施設を拠点とした島内観光地を周遊する新しい人の流れをつくると共に地域の観光消費額を増加させる。また、「佐渡島の金山」の世界遺産登録を記念し、記念チケットを発行することで、来館者の満足度の向上を図る。 【観光コンテンツの磨き上げ】 (1)博物館の魅力向上事業 街中展示も市内各地区に広がり、市民や旅行者が佐渡のいたる所で文化資源に触れ、佐渡の魅力を存分に味わえる環境が整った状態を目指す。 (2)地域の伝統技能発信事業 体験メニューの解説動画活用による来訪者へのおもてなし向上と、体験イベントの実施による普及啓発により、佐渡の伝統工芸の魅力が島の内外に伝わり、住民の郷土愛醸成と交流人口拡大を図る。 (3)地域文化保存継承・体験事業 文化の保護意識が醸成された市民・地域の文化活動が活発になることで、それを活かした更なる文化体験が可能となり、これらが観光で活用されることで、旅行者の利便性の向上だけでなく、魅力ある地域・利便性の向上する地域が増加し、持続可能な観光地域づくりにつながる。 【観光CRM体制の整備】 ◆個人旅行への転換、ニーズの多様化が進んでいる中で、顧客との市場コミュニケーションが複雑化している。域内事業者の経済活動に対してDMOがリーダーシップを発揮し、地域全体で稼ぐ仕組み、既存顧客へのロイヤリティ付与による良好な関係性構築のため観光CRMの体制を整備する。 【エリア別観光拠点づくりの推進】 ◆MaaSによる二次交通強化とあわせ、市内3か所の観光案内所を拠点として周遊する仕組みを構築し、各エリアのステークホルダーと連携しながらエリア内観光を推進する。 〈佐渡版MaaS「過疎地域における新たなモビリティ」〉 【タクシーアプリ導入】 ◆観光地や宿泊施設へのスムーズな移動や通院、買い物など住民生活の利便性向上を図るため、地域の自家用車・ドライバーを活用し運行する事業所を支援する。	R4	76,359,647	38,179,822	① 1人当たりの旅行消費額(円)	39,535円	55,000円	56,100円	地方創生に非常に効果があった	【事業評価】 【さどまる倶楽部運営管理業務委託料】 ・さどまる倶楽部利用者からのアンケート結果をもとに、利便性を向上させるための改修を実施した。観光情報の充実を図ったことにより、さどまる倶楽部の会員数が順調に増加し、旅行満足度も41.3%と前年から7.3ポイント増加させることができた。 【ユニバーサルな佐渡市に向けての拠点づくり】 ・「佐渡島の金山」が世界遺産に登録されたこともあり、きらりうもの来館者は26,985人と、令和5年度から約33%増、令和元年度(新型コロナウイルス感染症拡大前)より約30%増となっている。 ・きらりうむでは、令和5年度に引き続きファミリー層向けイベントやマルシェを開催したほか、現地への円滑な誘導を図るための佐渡金銀山音声ナビの継続、ガイドや施設のパネル等での情報更新を行い、来訪者の満足度向上及び佐渡金銀山遺跡の理解促進につながっている。 【観光コンテンツの磨き上げ】 (1)博物館の魅力向上事業 ・所管する博物館資料の整理・調査を行ったほか、施設の特徴を強化するため、佐渡植物園の樽29種の同定や管理について、専門家の助言を受けながら行った。 (2)地域の伝統技能発信事業 ・製餅師体験のガイドにより、佐渡の伝統工芸の魅力発信を行い、住民の郷土愛醸成と交流人口拡大を図った。 (3)地域文化保存継承・体験事業 ・史跡佐渡奉行所跡を会場に佐渡純粋茶会2024を開催し、306名の参加があった。相川郷土博物館のリニューアルオープン式典事業を行い、歴史的建造物を生かした展示内容により、佐渡鉱山の歴史的な価値を分かりやすく伝えるものとした。 【観光CRM体制の整備】 ・CRMにてさどまる倶楽部会員データを一元的に管理し、ステップメール配信システムを活用して顧客の状況に合わせた情報配信を行うとともに、宿泊エリアに応じたメール配信等を通じて、エリア周遊を促した。同時に、マーケティングの実践によってさど観光ナビのコンテンツの充実を図りながら、各種プロモーションによりサイトへの流入を促進した。 ・観光消費額や満足度の実績が順調に伸びてきており、これまでの取り組みが一定程度効果を発揮しているものと考ええる。 【エリア別観光拠点づくりの推進】 ・ガイド養成講座の開催と各エリアでの活用(案内所でのガイド常駐を含む)を同時並行で進めるとともに、アウトドア環境を活かした観光コンテンツ等の造成、エリア内周遊促進に向けた情報発信を行った。 【タクシー共同配車体制の構築】 ・Web配車システム導入により、市内タクシー事業者の個別配車業務の共同化並びに自動配車システムによる業務の効率化を図るとともに、ワンストップによるタクシーの呼出しに対応し利用者の利便性向上を図った。 ・Web配車システムの導入により、タクシー共同配車の実現とタクシー不足時における代替輸送として佐渡版ライドシェアの運用に繋がった。	(KPI未達成理由) 未達成なし	【実績を踏まえた事業の見直し】 ■KPI①1人当たりの旅行消費額、KPI②観光旅行者の満足度 ・コンテンツの更なる充実を図りながら、さどまる倶楽部会員の新規獲得を進めるとともに、顧客情報を一元管理するCRMシステムを活用した旅マエから旅アミまでの一貫した情報発信を行い、会員と地域の繋がりをより強固なものとし、関係人口の拡大を図る。 ・島内全体の関係者と連携した稼げる観光地域づくりに向けて、DMOを中心にマーケティングデータを関係事業者と共有しながら、地域連携の更なる強化に取り組む。 ・令和6年7月の世界遺産登録により盛り上がった機運を背景として、世界遺産を核としたブランディング、再訪間の契機となる魅力の磨き上げを行い、地域の賑わい創出及び交流を促進させ、また、佐渡金銀山ガイドランス施設のゲートウェイとしての機能周知を更に強化する。 ・今後、佐渡の豊かな歴史・文化、自然を観光素材として磨き上げていくため、博物館資料を分かりやすく解説・紹介していく。特に佐渡植物園においては、植栽札のリニューアルなどの整備を進め、他の施設においても、博物館資料の整理・調査を行い、資料の活用を進める。また、文化体験のできる機会と場所の提供を行うため、文化財施設等を有効に活用する取り組みを行う。 ・DMOを中心に地域事業者等と連携し、地域資源を活用したコンテンツの造成と磨き上げ、ガイドの育成と活用を図りながら、エリア内周遊を促進する仕組みづくりに継続して取り組む。 ■KPI③路線バス利用者 ・バス・タクシーだけでなく、地域が持っている交通資源について、デジタル技術を用いてフル活用し、誰もが利用しやすい地域交通の確保を目指す。なお、タクシーにおいては、タクシー事業者と連携し、Web配車システムによる共同配車及び佐渡版ライドシェアの本格運行に取り組む。
						② 観光旅行者の満足度(%)	29.20%	33.00%	41.30%				
						③ 路線バス利用者(万人)	35万人	38万人	40万人				

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和6年度報告】 (各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)														
NO	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について				
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R6年度)	実績値(R6年度)	効果	実績に対する評価	KPI未達成理由	今後の方針	
3	「元気なしまびと」を起点とした「魅力あるしま」づくりプロジェクト	【交流・居場所づくり ～社会参加及びコミュニティ形成の促進～】 ◆年齢や性別、障がいの有無を問わず多様な人々が、それぞれ関わりをもつため、交流・活動の拠点を設置し、同時に子育て環境の向上等に取組むことで、様々な人の社会参加やコミュニティの形成を促す。 【活躍・しごと ～生涯活躍のまち＝「魅力あるしま」へ～】 ◆女性や高齢者、障がい者等を含め、誰もがその能力を生かしてコミュニティの中で活躍するために、個々のニーズに応じてスキルやポテンシャルが活かせるような地域課題解決や地域活性化の取組みに対し、支援を行うことで、持続可能な地域づくりを図り、ひいては就業機会の創出にも繋がる。 【市民の健康対策 ～「元気なしまびと」づくり～】 ◆生涯現役の人材育成に向け、健康寿命、食育、運動及びそれらの教育にアプローチする事業を行うとともに、医療・介護・福祉等の各種施策・支援に横串を通し、一体的かつ効果的に事業を推進するための組織との連携を図ることで、自発的かつ持続的な健康づくりを展開する。	R4	56,718,045	28,359,022	①	地域づくり活動に関わった人数(人)	4,442人	4,538人	6,944人	地方創生に非常に効果があった	【(事業評価)】 【交流・居場所づくり ～社会参加及びコミュニティ形成の促進～】 ■地域力強化推進 ・社会福祉協議会が進める地域課題解決に向け、総合的な相談支援体制としてCSWや包括化推進員を配置することにより、地域力向上を推進した。相談件数も増え、地域生活課題を包括的に受け止める体制の構築を図ることができた。 【活躍・しごと ～生涯活躍のまち＝「魅力あるしま」へ～】 ■地域づくり活動支援 ・地域コミュニティの維持を図るため、地域内での困りごとの解決や助け合い活動に取り組む集落に交付金を交付し、R6年度は71集落を支援した。 【市民の健康対策 ～「元気なしまびと」づくり～】 ■自発的かつ持続的な健康づくりの推進 ・市民の健康寿命への意識の醸成や減塩の啓発を図るため、健康フェスティバル等を実施し、来場者の健康への関心を高めるきっかけづくりとなった。また、「しまびと元氣応援団」の活動を楽しみ体験し、世代間での交流を図ることができた。 ・スポーツ・レクリエーションの普及を進め、アンケート結果も踏まえたニーズのある健康・スポーツ教室等を全10地区で実施し、健康づくりの促進を図ったことで多くの参加者を獲得することができた。 ・ハバリスクアプローチ(栄養改善事業)において、後期高齢者集団健康診査の結果、BMI18.5未満の方等に管理栄養士が個別に栄養指導を実施し、栄養状態の改善につなげることができた。 ・伴走型PMOIにより協議会の運営体制をより強固なものとし、健康づくりに関する一体的な体制の構築に向けて協議を行い、各種施策・支援の成果の集約と各専門分野における検討及び効果的なフィードバック体制として「健康プラットフォーム」の確立に向けた検討を進めた。	【(KPI未達成理由)】 未達成なし	【(実績を踏まえた事業の見直し)】 ■KPI①地域づくり活動に関わった人数 ・持続可能な地域づくりを推進するうえで、より多くの地域活動を支援できるよう、地域コミュニティ交付金の補助率と上限額を見直しを実施する。 ■KPI②しまびと元氣応援団参加数 ・来場者の興味関心度が高かった健康度をチェックする測定を充実させ、自身の体の状態を理解し、健康への関心度をさらに向上させる。また、R7年度から5年間、健康づくり計画の見直しを行い、「やさしお」をテーマに、減塩の取り組みを重点に実施する。 ・R7年度は、「しまびと元氣応援団」が20周年を迎えるため、市民グループと協働して健康フェスティバルの企画を行う。 ■KPI③健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数 ・アンケートの結果等から内容を検証してブラッシュアップすることで、更に参加者数増を図る。また、教室の最初に保健師の健康講話を盛り込むなど、他課とも連携しながら健康づくりの意識付けを図り、健康寿命の延伸に取り組む。 ・適切なアセスメントにより保健指導が必要な対象者を把握し、保健師・管理栄養士が健診や訪問等で早期に相談・指導を実施することで、フレイル予防や疾病の重症化予防につなげる。また、必要時には関係機関と連携し、介護サービス等へ繋げる。 ・地域包括ケアの機能強化や地域コミュニティづくり等の取組みについての成果集約と、施策や民間事業へフィードバックできる体制として「健康プラットフォーム」の構築に向けて協議を進める。健康・福祉や地域課題の解決など、分野を問わず対応できる窓口や拠点を設置し、速やかに情報共有し、検討の上、フィードバックできる連絡・協議体制を、官民問わず、本事業で連携する組織間で整備することでワンストップ化を実現する。
						②	しまびと元氣応援団参加数(人)	4,299人	6,519人	6,824人				
						③	健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数(人)	1,380人	1,620人	2,229人				
4	安心して暮らし続ける島×地域循環共生圏の創出～多様な連携による持続可能な仕組みづくり～	【SDGsの推進】 ◆SDGsの取組に意欲を持った事業者の掘り起こしのため、市と民間事業者が連携し「佐渡SDGsパートナー」加入数増を目指す。また、他のSDGs未来都市等との連携に係るイベント等へ参加、佐渡SDGsパートナー登録など、SDGsの普及啓発に資する取組を展開する。 【島の環境】 ◆脱炭素化を自分ごとの課題として認識させ、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、一般家庭や事業等での再エネ導入を普及を促進し、太陽光発電設備等導入、電気自動車購入に係る経費の一部を支援する。また、低炭素化、再エネの目立分散化、地産地消の更なる促進に向け、EV自動車等の導入、公用車のレンタカーシェアリングの取り組み、離島地域のモデルとなる仕組みづくりを行う。 【島の経済】 ◆「島たびバイト」のターゲット及び受入れ企業の拡充を図る。またバイトの受入環境整備が困難な企業向けとして空き店舗を活用し寄宿舍としての提供や、若者(学生)が地域住民とのつながりや地域について知り、学ぶことのできるコミュニティスペースとして整備する。さらには、コミュニティスペースだけでなく、地域において気軽にテレワークができるワーキングスペース等を併設させた交流・情報共有の場となる複合的な施設として活用する。 【島の社会】 ◆SDGsを推進するにあたっては、ハード面のみならず、環境・経済・社会に好循環をもたらす人づくりと地域づくりのソフト面にも力を注ぐ。人づくりと地域づくりの実践に向けて、専門家に「佐渡市総合戦略アドバイザー」として参画してもらい、SDGsの考え方を取り入れた「佐渡未来講座」を開催。SDGsの普及啓発と地域の担い手育成の場の提供によって、佐渡版SDGsを推進する。 ・国内外の環境と経済が調和した持続可能な社会の実現および脱炭素化社会の構築に向けて連携・協定に関する基本協定を締結した専門機関から知見・ノウハウの提供やセミナー等の共催を通じた事業の伴走によって、持続可能な仕組みづくりに取り組む。	R5	6,953,527	3,476,763	①	SDGsパートナー加入数(社)	52社	20社	13社	地方創生に一定程度の効果があった	【(事業評価)】 【SDGsの推進】 ・SDGsの普及啓発と地域事業者の取組促進を目的に「佐渡SDGsパートナー」の認定盾を贈呈した。佐渡SDGsパートナーの累計登録数は110社に達し、地域内でのSDGsの認知度向上に一定の効果が見られた。また、事業者のSDGs活動が「見える化」されることで、他の企業や市民への可視化による波及効果が期待でき、認定盾の存在が事業者社員のモチベーション向上でや、登録検討中事業者にとっての参加に向けた動機づけとなる可能性がある。 ・SDGs未来都市である豊島区と連携し、豊島区で開催される芸術イベント「民俗芸術inとしま2024」に佐渡の鬼太鼓団体を派遣した。また、芸術イベントの前日には、地元小学校で体験型のワークショップを開催し、文化交流を深めることができた。 【島の環境】 ・EV公共車のカーシェアリングについて、観光オンシーズン(夏季)におけるレンタカー不足の解消と、島内でのEV車活用により脱炭素化と普及啓発を図ることができた。観光オンシーズンの利用が少なくなるため、観光客への周知と市民の脱炭素化への意識向上が課題である。 【島の経済】 ・連携大学に対する制度周知を行ったものの、島たびバイトの受入実績は振るわなかった。原因としては、「受入協力企業数が少ないこと」や「大学生が希望する職種や業務が限られていたこと」、「オンシーズンは宿泊施設の料金が高くなるため、安価で泊まれる大学生の拠点施設が少ないこと」等が考えられるため、上記課題の1つを解決するため、大学生が安価で泊まれる若者活躍拠点の寄宿舍改修を行った。 【島の社会】 ・外部専門機関の知見・ノウハウにより、持続可能な仕組みづくりに大いに寄与いただいた。また、佐渡総合戦略アドバイザーに招聘した「佐渡未来講座」や「自然共生みらい会議」の開催により、ステークホルダーとの連携が深まったほか、島内外の企業同士の連携も進むなど、SDGs推進の好循環が生まれた。	【(KPI未達成理由)】 ■KPI①SDGsパートナー加入数 ・市の事業に協力的な事業者を中心に令和6年度の計画値20件以上に声掛けをしたものの、声掛けを行った事業者の多くが、業務の繁忙や社内の意思決定の遅れにより、年度内の申請に至らなかった。特に小規模事業者では、労働力不足が深刻であり、日常業務に追われ、新たな取り組みに時間や人手を割く余裕がない状況が見られた。また、SDGsパートナー制度の存在や内容が十分に理解されていないことが、申請数の伸び悩みに影響している。 ■KPI②市内総生産額 ・R3年度実績(R5年度公表)よりも市内総生産額は増加したものの、人口減少や労働力不足等を理由として、事業開始前(R1年度)実績よりも落ち込んでいる状況。本事業をはじめ他の移住定住施策と連携し、取り組んでいく。 ■KPI③今度も佐渡に住み続けたいと思う人の割合 ・R2では70歳以上の回答数は4割(652人/1,628人)を占めていたが、R6では70歳以上の回答は1割未満(153人/1,591人)であり、LINEアンケートで実施したことで、「佐渡市に住み続けたい」と回答されることが多い年齢層から一定数の回答を得られなかったことが、数値が落ち込んだ1つの理由と考えられる。 ・市外へ移りたいと回答した人のうちその理由で多い回答(複数回答可)は、「医療福祉体制が不十分(338人)」、「道路やバス等のインフラが不十分(260人)」。「店舗や娯楽施設が不十分(259人)」となっている状況であり、生活していくうえで欠かせないインフラ(医療福祉、道路・公共交通、買い物施設)に不安を感じている人が多いことがわかる。	【(実績を踏まえた事業の見直し)】 ■KPI①SDGsパートナー加入数 ・制度の周知や申請手続きの分かりやすさを改善しつつ、引き続き、声掛けした事業者のうち、登録検討中の事業者や、新規事業者に働きかける。 ・SDGsの普及にあたっては、R6年度は国際連合における佐渡VLRの公開や佐渡オリジナルSDGs18項目アイコンと取組例の公表、SDGs教育ゲーム、子ども向けワークショップ等によって、市民に分かりやすく発信したが、市民や消費者、事業者の行動変容を促すにはまだまだ不十分であったため、R7年度は以下の新たな取組なども含めて実施する。 ①3Rの推進(フリーマーケットの開催 等) ②ゴミという概念がない社会形成に資する取組(にいがたゼロチャレ30の推進 等) ・島内SDGsの推進に向けて様々なステークホルダーとともに普及啓発活動を進めつつ、今後は島内のみならず、他都市への普及展開や本市の取組を国内外へ情報発信できるように、外部専門機関等と連携していく。 ■KPI②市内総生産額 ・佐渡島内の仕事を一つプラットフォーム「さどマッチボックス」を活用しながら、働き手と受入企業の確保を進める。併せて、整備された寄宿舍の運営を開始し、当該施設を若者(学生)が地域住民とのつながりや地域について知り、学ぶ拠点として活用することで、関係人口の創出や地域人材の確保へとつなげていく。 ■KPI③今度も佐渡に住み続けたいと思う人の割合 ・アンケート結果から生活していくうえで欠かせないインフラ(医療福祉、道路・公共交通、買い物施設)に不安を感じている人が多いが、インフラ・施設整備には多額な予算が必要であるため、国等に対して交付税等の財源支援をはじめとした要望を行うほか、関係課と連携し、課題解決に取り組む。 ■KPI④再生可能エネルギー設備等の導入件数 ・脱炭素化を自分ごとの課題として認識させ、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、一般家庭や事業等での再エネ導入の普及を促進し、太陽光発電設備等導入に係る経費の一部を支援する。また、市民へのEV普及啓発を推進する。
						②	市内総生産額(百万円)	170,300百万円	174,650百万円	161,252百万円				
						③	今後佐渡に住み続けたいと思う人の割合(%)	78.40%	82.26%	58.30%				
						④	再生可能エネルギー設備等の導入件数(件)	0件	53件	130件				